

海外相場の焦点は中国・青島港の問題

橋本金属
アルミ橋本健一郎氏リポート①

■概況

六月前半は中国の四月の非製造業PMI指数が四月月連続で五〇を割った事による景気刺激策期待や、中国の四月の貿易統計で輸出額が市場予想を上回ったこと、中国貿易黒字が一八四・五億ドルで予想の二二・九億ドルを上回った。ニッケルがニューヨークのゴロニッケルで生産停止が伝えられバック買い殺到、一気に二万〇、〇〇〇ドルを突き抜け二年ぶりの高値を付けたことを好感し、LMEアルミ相場は上昇する場面もあったが、四月の中国製造業購買担当者指数が五〇・四と予想の五〇・五を下回ったこと、四月の中国HSBCサービ部門PMIは五一・四、前月の五一・九から低下したと嫌気し下落、一、七五〇ドル(現物後場買い)と前月最終価格から一九ドル上げて前半締めとなった。

後半はニッケルが一時二万八、〇〇〇ドル割れまで暴落した事、一、二三月期のユーロ圏GDPが予測以下だった事、四月の米鉱工業生産指数は市場予想よりも悪化し前月から〇・六%低下したこと、第一四半期の米GDPが前期比一%減に下方修正。予想の〇・五%減を下回ったことなどマイナスマテリアルもあったが、四月の米住宅着工件数は前月比一三・二%増加の一〇七・二万件で予想の九八万件を上回ったこと、ニッケル先物で二万ドル台を回復したことやドル安背景でコモディティも上昇した。

六月五日現在、LMEアルミ相場は(現物後場)一、八〇五ドルと前半締めから五五ドル上昇してのスタートとなった。

ただ中国青島港保税倉庫で銅二万t、アルミ八万tの倉荷証券が複数の金融機関の担保にされている多重債務問題が台頭、現在、鉄鉱石・銅・アルミの出荷停止が行われているとの報を受け今後の動向に注目される。

■前月の経済指標

月間のドル/円レート(TTS)

一〇三・二〇→一〇二・七四(円)

■自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比三・四%増の七七万〇、四八四台であった。

■自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比五・六%減の二〇万六、九〇六台。

■新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸

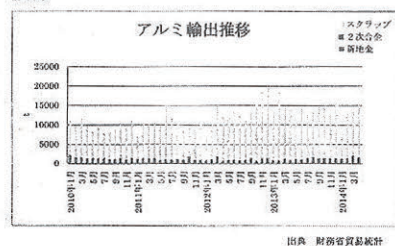
数は前年比三・三%減の七万五、二八六戸であった。

■貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニウム合金が前年比二・三六・五%増の二二・二t、二次合金が七・八・四%増の一、四三・一t、スクラップが〇・四%増の一、三三・七t。

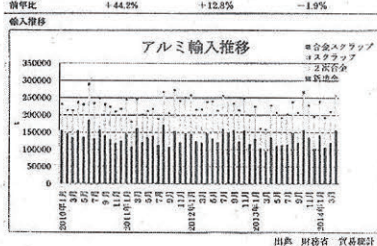
輸入は新地金が前年比一五・五%増の一五万五九〇七t、二次合金が八・二%増の九万八二〇六t、スクラップが三・二%減の七九四t、合金スクラップは一・九%減の三、七三三t。

	2月	3月	4月
輸出			
新地金	122 t	278 t	212 t
前年比	14.4%	19.6%	+236.5%
二次合金	1240 t	1797 t	1431 t
前年比	+65.1%	+87.4%	+78.4%
スクラップ	11698 t	12518 t	13710 t
前年比	-33.4%	-9.3%	+0.4%
輸出推移			



出典 財務省貿易統計

	2月	3月	4月
輸入			
新地金	10万6820 t	11万9714 t	15万5907 t
前年比	+2.9%	+25.7%	+15.5%
二次合金	8万2856 t	8万8504 t	9万8050 t
前年比	+44.9%	+45.6%	+8.2%
スクラップ	770 t	737 t	794 t
前年比	+6.5%	+0.30%	-3.2%
合金スクラップ	4273 t	3445 t	2733 t
前年比	+44.2%	+12.8%	-1.9%
輸入推移			



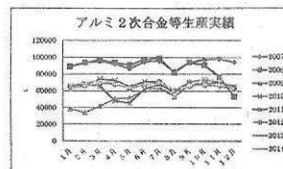
出典 財務省貿易統計

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比九・二%増の一七万八、五八五t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比四・一%減の六万八、一二〇tであった(関連グラフは六面に掲載)。(六面へ続く)

出典 日本アパレル工業会



附錄 日本工業標準化委員會

為替、Sは欧州のPMIを定しめたとする指標が比較的安定している事、米経済指標も堅調とことから、欧米共に変化のない場合、米経済ドル・ドル高円安から三月安値の一〇四円台、上値は欧米の経済指標が著しく悪化した場合、失望感から一〇二円まで円高が進むとの予測。